

旅ルポの先輩本、今年こそ…



「関連本を読み込み150年前の旅の道をたどってみたい」と話す滝野沢さんと愛猫ねず子。手にしているのは「イザベラ・バードと日本の旅」④と本宮常一著「イザベラ・バードの旅」⑤天栄村

「イザベラ・バードさん。すごいじゃないですか。今は一番、それがやりたい」

滝野沢優子さん(62)⑥天栄村⑦は、ツーリングをはじめ、旅全般のルポを得意とするフリーライターだ。20代からオートバイで世界中を旅し、走破した距離は約30万キロ。南極を除く全大陸を駆け巡ってきた。

そんな旅のプロが、長年の積ん読を経て、いよいよ今年読破をもうけるものが、英国人による19世紀の日本の旅を読み解いた金坂清則著「イザベラ・バードと日本の旅」(平凡社新書)。

「イザベラは1878(明治11)年に通訳1人だけを連れ、会津など東北地方や新潟から北海道を旅し、そ

の様子を『日本奥地紀行』という本に著した英国人旅行家です。この時、彼女は47歳。日本以外の辺境の地も精力的に旅していて、70歳になってもモロッコを長期旅行していたといいます」

滝野沢さんにとっては大先輩。150年近く前、外国人女性、それも若くはない年齢。ガイドブックも、まともな地図さえなかったはず」と憧れを語る。

当然のように滝野沢さんは、その足跡を「現在の馬であるオートバイでたどろう」と、ぼんやり考えていた5年ほど前、イザベラ・バード研究の第一人者、金坂氏の講演を聞き、すぐに購入したのがこの本だった。

「なのに、ずっと本棚の隅…。今年こそ、この本を手始めに関連本をもっと読んで旅立ちたい。でも果たしてどうなることやら」。朗報、お待ちしております。

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと (330 字程度)

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

3 人の方の本への思い、それぞれに考えさせられますね。

あなたは「何読」派ですか？

